



TITLE:

三月の星の空

AUTHOR(S):

CITATION:

三月の星の空. 天界 1927, 7(72): 102-103

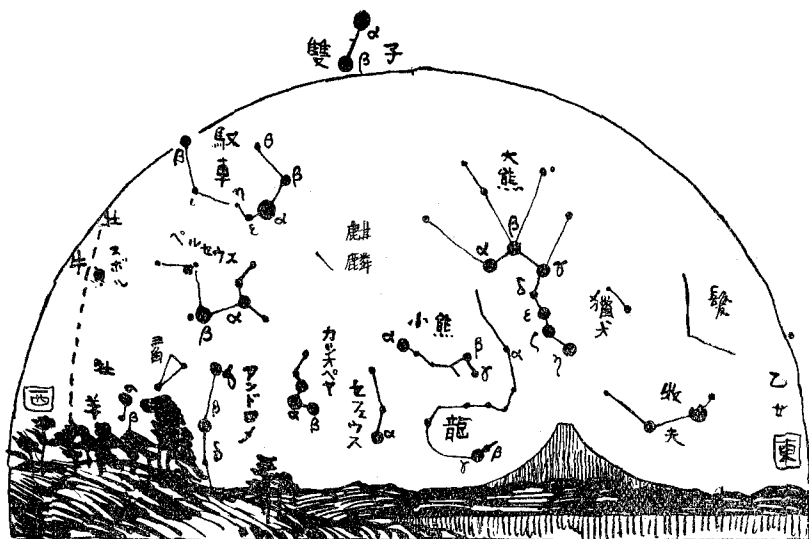
ISSUE DATE:

1927-02-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161086>

RIGHT:

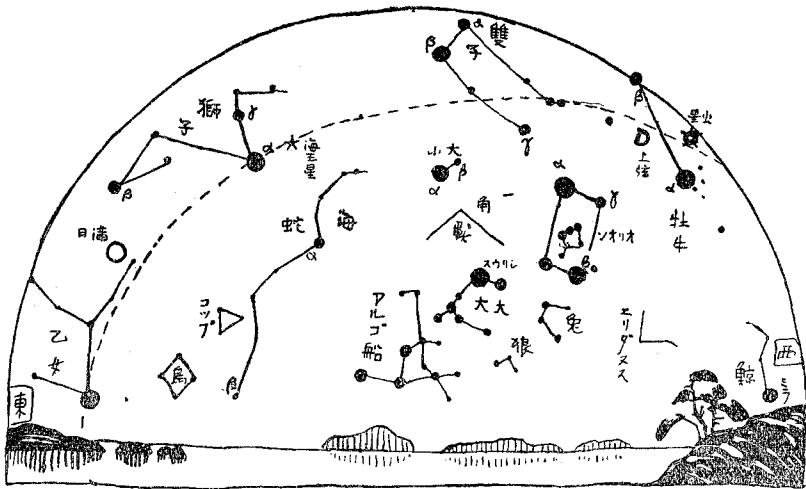


三月の星の空

(北 半)

きり々々さ風車の如くに(!!)北斗の七つ星は、北極の上から西へ、西から下へ、下から又現はれて、今は東北の空に高い。此の北斗を、此の圖の如くちようご富士の峯の上に眺め得る人々は、廣い日本に幾人あるだらう。静岡の市の郊外、北窓の家に住む人は幸である。

大熊を獵犬が追ひ、獵犬を牧夫が繰つる——一幅の大活畫は愈々東の天にひろげられた。獅子も、蟹も、海蛇も、………天は全く一大動物園化して行く一方に、セフェ、カシオペア、アンドロメ、ペルセなどの神話の舞臺は刻々西へ沈み去る。



三月の星の空

(南 半)

オリオン、大犬、小犬などの冬の星座が今わが子午線を通過したばかり。アルゴ船がちょうど正しい南の水平線上を西へ急いでゐる。——三千年の昔しの、ヤソンの一隊を乗せたまゝ、此の船は羊の金毛を取りに行く。何時までも、何所までも。

天頂の双子は、望遠鏡の持ち主にも、肉眼での観察者にも、盡ない興味の源泉である。——其の二重星を見よ。其の變光星を見よ、更に其の美しい星團を見よ！

海王星と共に、獅子は既に高く、乙女さへ東から登つて來たのに、火星はまだ西に消えやらず、羊から牛へ移つて來て、名残りを惜しむか？